

低腎排泄抗がん剤の用量調整

薬剤名	尿排泄率(%)	GFR 高度低下時の使用	コメント
Chlorambucil	<1	可能	用量調整不要だが、骨髄抑制リスク増大の恐れ
Gemcitabine	<10	要注意	血清クレアチニン値 1.6 mg/dL 以上の場合、皮膚・腎毒性増加の恐れ
Fluorouracil	10	要注意	用量調整不要だが、肝・腎障害患者では特に注意が必要
Vincristine	10-20	可能	用量調整不要
Vinblastine	<1	可能	用量調整不要と考えられるが情報は少ない、高齢者では注意が必要
Vinorelbine	低い	要注意	透析患者は好中球減少起こりやすいが、用量調整必要との根拠に乏しい
Paclitaxel	1.3-12.6	可能	腎不全・肝不全は用量調整が必要かも、ただし通常は用量調整不要
Docetaxel	6	可能	60歳を超える患者で capecitabine と併用時は毒性状況の恐れ
Irinotecan	<20	データ無し	
Doxorubicin	10	要注意	用量調整に関するガイドライン無し、透析患者以外は問題なさそう
Epirubicin	9	要注意	用量調整に関するガイドライン無し、透析患者以外は問題なさそう
Daunorubicin	<25	データ無し	血清クレアチニン値が正常上限 2 倍以上は 50%減

			量、75歳以上は投与を避けるべき
Mitoxantrone	<11	可能	用量調整不要
Mitomycin	<10	可能	微小血管性溶血性貧血など腎不全を起こしうるが、腎障害は薬物動態に影響しないので、用量調整は不要
Idarubicin	<6.6	要注意	血清クレアチニン値により減量：2.3 mg/dL を超えると 50%、2.0 mg/dL を超えると 75%
Tamoxifen	<1	可能	用量調整不要
Bicalutamide	低い	可能	用量調整不要
Thalidomide	0.7	要注意	重症腎不全時は薬剤クリアランスは低下するが用量調整は不要、ただし毒性が高まる恐れ、骨髄腫患者でアミノグリコシドの腎毒性を高める恐れ
Bortezomib	低い	データに乏しい	問題ないと思われるがよくわかっていない
抗 VEGF 抗体	不明	データ無し	腎障害患者への用量調整は不明